

## 日本モビリティ・マネジメント会議（JCOMM）の紹介

### 一般社団法人 日本モビリティ・マネジメント会議

#### 1 はじめに

交通行政上の課題は、実に多岐にわたります。混雑対策、公共交通の活性化、福祉的視点からのモビリティの確保、そして、まちなか活性化や地球温暖化対策等、交通行政は、実に様々な課題の改善を目指しています。しかし、交通という現象は多くの人々が関わる複雑な社会現象そのものであって、それらの問題を簡単に一挙に解決していくことは容易ではなく、担当者の方も長年悩み続けられてきているでしょう。

そのような中、新しい考え方として注目を集めてきた新しい交通行政アプローチが「モビリティ・マネジメント」（略してMM）です。「モビリティ・マネジメント」という言葉は、文字通り「モビリティのマネジメント」を意味するものであり、ここにモビリティ（mobility）とは、ミクロには一人一人の“移動”を意味するものであり、マクロには都市や地域全体の“交通流動”を意味します。一方、マネジメントとは、「あれこれと試行錯誤を繰り返しながら、目的達成に向けた種々の営為を繰り返す」ということを意味します。それ故、「モビリティ・マネジメント」とは、当該の都市や地域の「豊かさ」の増進を目指し、一人ひとりの移動や地域全体の交通流動状況を、一步一步改善していく、一連の取り組みを指します。具体的には、

ひとり一人のモビリティ（移動）や個々の組織・地域のモビリティ（移動状況）が、社会にも個人にも望ましい方向に自発的に変化することを促すコミュニケーションを中心とした多様な交通施策を活用した持続的な一連の取り組み

と定義されています。

#### 2 日本モビリティ・マネジメント会議について

モビリティ・マネジメントの基本的な技術の一つであるTFPが我が国で最初に紹介されたのは1998年であり、翌1999年には、初めて実験的なMMがパイロットテストとして実施され、2000年には本格実施されています。その後様々な地域、自治体で雑対策、公共交通の活性化、まちなか活性化等、様々な視点で、そして、ダイレクトメールを活用した手法や、ラジオ、新聞、HPを活用した手法等を通して、「クルマ利用からバス・電車利用への転換」を促していく取り組み等が展開されていった。こうした各地での強い意志に基づく取り組みの結果、公共交通の利用者が上昇に転じ、通勤時間帯の普段の交通

量が減少した、目に見える効果が得られた地域も見られ始めました。

こうした各地の MM の取り組みは、毎年夏に開催される「日本モビリティ・マネジメント会議（Japanese Conference On Mobility Management. 以下 JCOMM）」では、MM に情報交換、議論が展開されています。JCOMM は 2006 年に第 1 回が東京で開催され、毎年全国各地に会場を移して開催され、全国から国や地方自治体、大学、コンサルタント等から 300 名以上の参加をいただいています。最近では地方議会議員や公共交通事業者の参加者も増加しています。JCOMM での情報交換は、広く、深く情報が得られるように、通常の学会のスタイルである口頭発表に加え、様々な形式をとっています。ここでその形式を紹介します。

#### ○ 口頭発表

戦略的、先進的、あるいは先駆的な MM の取り組みについて、口頭によるプレゼンテーションと質疑を行います。セッションにはテーマを設定しており、昨年の JCOMM では「MM の戦略的な展開」、「観光・余暇・買い物と MM」、「多様な主体による MM」、「MM と情報化」がテーマとなりました。

#### ○ ポスター発表

JCOMM でのもう 1 つの発表形式で、おおむね A0 サイズのポスターに発表内容を記載し、参加者は各ポスターを訪れ、発表者から直接説明を受けるとともに、質疑を行うスタイルです。ポスター以外に作成・配布したツールやシステムの画面も展示されます。MM を実際に携わった方に気軽に質問ができるため、深く情報を得ることができます。昨年の JCOMM では、約 40 本のポスター発表がありました。

#### ○ 特別セッション

現在直面する交通・まちづくりの問題や将来の方向性をテーマに、講演、あるいはパネルディスカッション形式により議論するセッションです。昨年（仙台大会）では、中川大京都大学大学院教授をコーディネーターに、全国五社の地方民間鉄道事業者の方々と「地方民間鉄道がんばろう！～地方鉄道における MM の役割と今後の展望」と題したパネルディスカッションを行いました。

#### ○ 開催地企画

開催地の交通やまちづくりについて、市民の方も交えて考えていくセッションです。例年、開催地や周辺地域が抱える交通の諸問題をテーマに議論を展開しており、昨年（仙台大会）では、「東北の地方都市・農山漁村における公共交

通」や「仙台市の公共交通利用促進のために市民の立場でできること」をテーマに議論が展開されました。

#### ○ JCOMM 賞授賞式

国内の様々なモビリティ・マネジメントについての様々な取り組みや研究の中でも、特に優秀な取り組みや研究を選定し、その実現に貢献した個人あるいは団体を表彰しています。これを通じて、モビリティ・マネジメントの「実務発展」と「技術発展」を期待しています。JCOMM 賞には、都市や地域の交通に関連する諸問題の解決に向けて、効果的に推進されている一連のマネジメントを表彰する「マネジメント賞」、交通に関連する諸問題の抜本的緩和に繋がり得る新規性、完成度、応用可能性や取り組み姿勢がすぐれたプロジェクトを表彰する「プロジェクト賞」、各種ツールの中でも、とりわけ秀逸なデザインがなされたツールを表彰する「デザイン賞」、モビリティ・マネジメント実務に資する技術の発展に、顕著な貢献をなした研究業績を表彰する「技術賞」があります。JCOMM では授賞式ののち、発表者の展示コーナーを設けており、顕著な成果を挙げた MM の取り組みについてより詳しく情報を得ることができます。

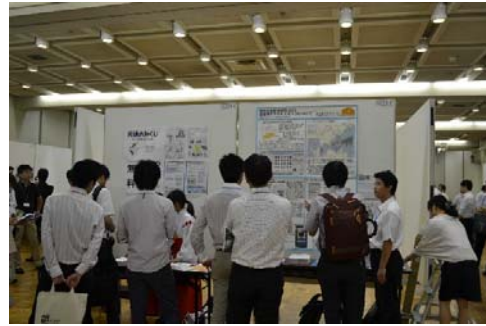
このように毎年の JCOMM では、様々なスタイルでの情報交換の機会が提供されており、交通政策の専門家から、これから交通政策に携わる初心者の方でも MM について十分に情報を得て、議論することのできる場となっています。JCOMM に参加された方からは、「各地で取り組んでいる内容や苦勞、対応がわかり参考になった」、「来年は JCOMM 賞に応募できるように頑張りたい」などの感想をいただいております。各地の交通政策の展開にもフィードバックされ、非常に有意義なものとなっています。

2014年の JCOMM は、7月25日（金）より北海道帯広市・とかちプラザで開催されます。発表の申し込み、JCOMM 賞の推薦は4月11日（金）が締め切りとなっています。各地の MM の取り組みについて、ぜひとも発表や JCOMM 賞の申し込みをお願いします。そして、MM の取り組みを通じて人々の行動・意識、そして社会がよりよい方向へと変わるように、JCOMM を通じて皆さまと議論できることを楽しみにしています。

（詳しくは JCOMM ホームページ <http://www.jcomm.or.jp>）



口頭発表の様子



ポスターセッションの様子



JCOMM 賞授賞式